平成24年２月１日

No. 156

さい議会だより

気を引き締め、整列！（１月７日佐井村消防団出初式）

12月定例会

住民健(検)診の無料化実施を … 3 ページ
厳しい財政運営の今後は …4, 5 ページ
工事再開には十分な議論が必要 … 7 ページ

・発行 佐井村議会 ・編集 議会広報編集委員会 ・〒039-4711 青森県下北郡佐井村大字佐井字糠森20 TEL0175-38-2111 FAX0175-38-2492

平成２３年第４回定例会は、１２月５日から７日までの３日間の会期で行われました。
村長から補正予算案５件、条例案２件、人事案２件、その他２件の計１１件、議員から陳情の採択に伴う意見書案１件が提出され、それぞれ全会一致で原案どおり決しました。

各会計補正予算案を可決

各地区避難所へ衛星携帯電話を整備

会計		補正前	補正額	計
一般会計		24億5474万4千円	6123万1千円	25億1597万5千円
		避難所衛星携帯電話整備費 281万4千円 子ども手当制度改正による不足額 487万1千円 小規模治山事業測量設計業務委託 297万2千円 奨学金貸付金確定による減額 △160万円 など		
特別会計	簡易水道	7505万0千円	385万0千円	7890万0千円
		牛滝浄水場維持補修工事費 383万3千円 など		
	下水道	1億6654万3千円	3万4千円	1億6657万7千円
		共済組合負担金率の変更に伴う共済費の増額など 3万4千円		
	国民健康保険	4億2493万3千円	519万9千円	4億3013万2千円
		退職被保険者医療費の伸びに伴う増額 500万円 など		
	介護保険	2億5588万0千円	2017万4千円	2億7605万4千円
		居宅介護サービス給付費の給付見込みによる増額 1402万円 など		

審議した主な議案

○佐井村暴力団排除条例
青森県暴力団排除条例の施行に伴い、暴力団の排除を推進し、村民生活の安全と平穏の確保及び健全な発展に寄与することを目的に制定する。

○佐井村長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の一部改正
長期継続契約を締結することができる契約の種類に、一般廃棄物収集運搬業務委託を追加するため一部改正する。

固定資産評価審査委員

松谷幸一さんの再任に同意

固定資産評価審査委員　松谷幸一氏の任期が平成二十三年十二月十七日で満了するため、引き続き同氏を固定資産評価審査委員に任命することに、全会一致で同意しました。

松谷幸一さん
（大佐井）

人権擁護委員の候補者

田中豊衛さんの推薦に同意

人権擁護委員　田中豊衛氏の任期が平成二十四年三月三十一日付で満了するため、引き続き同氏を人権擁護委員の候補者として推薦することに全会一致で同意しました。

田中豊衛さん
（福　浦）

低い健（検）診受診率
無料化で村民の健康維持を

川岸委員

当村の健（検）診が有料となり、受診率が低くなったようである。年々高額医療費の村の持ち出しが増えてきており、健（検）診受診率の向上が医療費の抑制につながるのではないかと考えている。

現在、子どもの医療費が無料となっているが、県内ではどのくらいの市町村が子どもの医療費の無料化を実施しているか。

また、村の健（検）診を無料化した場合の村の負担分はどのくらいか。

昨年の自己負担金 約80万円

参事・住民福祉課長

県内では十市町村が、当村と同じ中学卒業までの入院、通院の医療費を無料としている。

昨年度の決算状況では、各種健（検）診の委託料が四百八十万円程度である。受診者の自己負担金は七十六万五千円である。無料化に伴い村が負担するのは自己負担金の七十六万五千円となる。

健（検）診を無料化できないか

川岸委員

無料化によって、自己負担分の約八十万円だけが村の負担増となるならば、何とか無料化にできないか。

検討したい

村長

村民の健康づくりは優先すべき課題であり、積極的な受診を促すことによって早期発見、早期治療での医療費の抑制につながっていくと思う。

来年度の予算編成にあたり、自己負担の無料化を検討したい。

全村民対象での無料化を

川岸委員

もし無料化とした場合、どのぐらいの範囲を無料とするのか。できれば全村民を対象とし検討してほしい。

十分議論し進めたい

村長

健康が第一であり、十分住民福祉課の中で議論し、私もそれなりの判断をしたい。

継続的な無料化の実施を

川岸委員

もし無料化するにしても一年だけで終わるのではなく、ぜひ継続してほしい。

財政担当課と検討する

村長

財政的に非常に厳しいが、やるとすれば継続できるよう財政担当課とも検討をしていく。

１２月定例会　陳情書の審査結果

件　　名	陳 情 者	審査結果	付託委員会
高齢者医療制度等に関する意見書提出を求める陳情書	青森県社会保障推進協議会	不採択	総務産業常任委員会
介護保障制度に関する意見書提出を求める陳情書	**青森県社会保障推進協議会**	**採　択**	**総務産業常任委員会**
国保国庫負担率の大幅引上げ等の意見書提出を求める陳情書	青森県社会保障推進協議会	不採択	総務産業常任委員会

竹内　修議員

厳しさ増す財政運営
村民へどのようにして理解を求めるのか
村長――村民が共通認識を持つための機会を設ける

竹内　修議員
平成二十四年度予算編成方針の説明の中で、電源立地対策交付金の交付が終了することなどの要因で財政が一段と厳しくなる状況とのことだが、どのようにして村民に理解を求めていくのか。

行財政改革や総合計画の推進

村　長
引き続き行財政改革に取り組むと同時に、第四次長期総合計画を推進するため、職員が村の財政環境を認識し全庁一丸となって取り組む。また、住民や議会への報告、意見を吸い上げる機会を設け、皆が共通認識を持ってもらうよう努力していく。

各地区で出前の懇談会実施を

竹内　修議員
各地区への出前の行政懇談会等開催し、今後の村のあり方や村民からの要望・苦情など膝を交えて意見交換をしたらどうか。

一つの方法と考え進める

村　長
各地区での行政懇談会も一つの方法と考えながら進めていきたい。

行政改革大綱を目標に取り組むべき

竹内　修議員
村財政が厳しくなってくれば、行政改革大綱にあるような人材育成の強化や住民との協働による行政運営等を目標課題として取り組んでいかなければならないと思うが。

共通認識の下村の維持に努める

村　長
むらづくり基本条例の理念である情報の公開、共有に努め、住民・議会・行政が共通認識を持ちそれぞれの責任と役割を分担し、村の維持に努めていかなければならないと考えている。
多種多様な住民ニーズに応えられる職員の育成、さまざまな発想と創意工夫を持った住民の人材を発掘・育成し、厳しい財政運営を克服していかなければならない。

漁業活性化のために専門職員配置を

竹内　修議員
村の基幹産業である漁業の担当課には専門職員がいない。
国、県では漁村活性化に向けたセミナー等の研修を実施しているが、村でも職員を派遣し、職員にノウハウを身につけさせ、漁村の活性化に努めてほしいと思うが。

研修などで育成していきたい

村　長
研修・講習等があれば、何らかの形で出席させ人材育成していくよう考えたい。

理解得られる指導体制に持っていく

産業建設課長
漁協にも理解してもらえるような職員の指導体制に持っていきたいと考えている。

地域担当職員を自治運営の中核へ

竹内　修議員
急速に少子高齢化が進み歯止めがかからない状況で、各町内会等も自治運営に四苦八苦しているのが現状である。地域担当職員制度が自治運営の中核になってもらわなければならない状況までできていると思うが、村長の考えは。

職員に託してみたい

村　長
これからの防災等のことを考えると、今一度、制度の理解に努め、職員に託してみたい。

村民と直接対話する機会は必要（議会報告会　原田地区）

12月定例会

総合計画の実施状況は

竹内　修議員

第四次長期総合計画の「あおい環経済戦略ビジョン」は計画どおり進んでいるか。

また、基本計画の見直し時期であるが、第一章から第四章までの実施計画はどのようになっているか。

策定は若干遅れている

村　長

計画策定は若干遅れているが、重点プロジェクト事業は実施されている。

実施計画については今後の財政状況を見ながら、検証委員会を設置し事業の精査を行い、各関係者の意見を把握し、必要性、効果、財政負担等を見極め実施したい。

議会の参画は可能か

竹内　修議員

この総合計画を違う角度で議論したいと考えているが、議会の参画はできるか。

意見もらう機会設けたい

参事・総務課長

どういう形の参加になるかは検討していないが、実施計画策定段階で議会には内容説明をし、意見をいただく機会を設けたいと考えている。

避難道路について明記すべき

竹内　修議員

総合計画の防災対策の部分は震災前に策定したこともあり、地震・津波に対する対策は明記されていない。

今、実施計画を作るにあたり、震災を踏まえ避難道路についてはっきり明記すべきでないか。

防災計画を見直しする

村　長

避難経路や避難道路については、国・県の防災計画の改定後、それを受け村の防災計画の見直しをする予定である。

また、今年度作成する県の避難実施要領を基に、当村の避難所、避難経路の見直しも図る予定である。

避難場所へ女性職員の配置を

竹内　修議員

災害等で避難場所へ避難した際に、炊き出しや避難者のケアなど女性職員が必要であると思うが、避難場所へ女性職員を配置する考えはあるか。

検討したい

村　長

当村の職員はかなり少なく、庁内全体のことを考えるとなかなかできない。今しばらく時間をいただきたい。

三位一体となり取り組むべき

竹内　修議員

行政改革大綱を着実に遂行し、財政的に厳しい今を乗り越えるために、三位一体となって皆が取り組んでいかなければならない。

意見を聞き職員一丸となり進める

村　長

絵に描いた餅にならないよう職員一丸となり、住民や議会の意見・要望も聞きながら進めていきたいと考えている。

第４次長期総合計画基本政策

第１章　わかりやすい行政と住民参加のむらづくり
（自治・協働）

第２章　子どもとお年寄りが安全で安心して暮らせる温かいむらづくり　（保健・医療・福祉）

第３章　豊かな地域資源を生かし自然と共生した産業のむらづくり
（産業・交流・環境・基盤・定住）

第４章　伝統文化を守り、子どもが夢と希望を持てるむらづくり　（教育・文化）

第５章　重点戦略プロジェクト

避難者のケアなど行う職員の配置も必要である（平成 23 年度防災訓練）

坂井文明議員

電源立地対策交付金交付終了
今後どのような財政運営をしていくのか
村長――職員一丸となり、財源の確保と政策実現に努める

坂井議員

平成二十四年度で電源立地対策交付金が交付終了となる。このことから、平成二十六年度で財政調整基金残高がゼロになり、平成二十七年度予算編成ができなくなるという危機的状況に陥るのではと危惧している。交付終了後の財政運営をどのようにしていくのか。

危機感を持ち財政運営に当たる

村　長

平成十六年度から総額十八億三千六百万円が村に交付され、施設整備や人件費などに充当してきた。

平成二十六年度以降の予算編成は極めて困難な状況に陥ることが予想されるが、庁内組織全体として危機感を持ち財政運営に当たりたい。

交付金に代わる財源の検討は

坂井議員

交付終了は以前からわかっていたはずだが、それに代わる財源対策は検討しなかったのか。

予定していた交付金は交付未定

参事・総務課長

東通村の原発、むつ市の中間貯蔵に係る交付金を予定しているが、現在の状況では交付されるか予想できない。このため、行財政改革を今後も断行していかざるを得ない状況である。

歳入の増に努力すべきでは

坂井議員

このままでは、歳出の抑制が主となり職員の人件費削減と住民サービスの低下が危惧される。これでは村が衰弱し、夢も希望もなくなってしまう。

これからは歳入の増に努力すべきであり、そのような意識改革が必要でないかと考えるが。

厳しい状況だが頑張りたい

村　長

私も村のセールスマンとして様々な場面で財政状況を訴えながら、職員一丸となって取り組んでいる。厳しい状況ではあるが頑張りたい。

財政運営プロジェクトを推進しては

坂井議員

村民二千四百人の将来に希望が持てるよう村の方向を示してもらいたい。

総合計画が今進められているが、それに合わせ財政運営についてのプロジェクトを推進し、専門分野を入れながら協議していく必要があると思うが。

知恵を借り進めたい

村　長

総合計画ではプロジェクトチームを立ち上げ、わかめオーナー制度を実施している。みなさんの知恵を借りながら、多少でも希望の持てるように今後も進めていきたいと思っている。機会あるごとに叱咤激励してもらいたい。

力を合わせ頑張ってほしい

坂井議員

総合計画がスタートし、わかめオーナー制度など一年目にして先行きが明るいように感じ期待している。財政運営については力を合わせて頑張っていただきたい。

11 月に行われた佐井村「弁天わかめオーナー」種付け作業体験の様子

建設工事休止中の大間原子力発電所

早期工事再開の考えに変わりはないか

村長――今の状況では慎重に判断すべき

坂井議員　三月十一日の大震災による東京電力福島第一原発事故後、建設を休止している大間原発について村長は、大間原発対策特別委員会で再三にわたり早期の工事再開を要請しているが、現在も考え方に変わりはないか。

慎重に判断せざるを得ない

村　長　これまで、工事再開については安全に配慮したうえで再開してほしいというものを付け加えて話をしている。

工事再開については、慎重に判断せざるを得ないと考えている。

まだ工事再開すべきでないと思うが

坂井議員　電源開発㈱による安全対策が進み、工事再開への動きがあるものの、住民は安全神話の崩れた原発に不信感があり、厳しい目を向けている。脱原発の大きな流れの中、当面工事再開はすべきでないと考えるが。

工事再開は時期尚早

村　長　議会や住民、世論の意見を尊重すると、まだそういう工事再開の時期ではないと思っている。

関係各機関との協議への対応は

坂井議員　福島の原発事故後、全国的に電力会社と自治体とのやらせ問題などが国民の不信をかっている。

事業者とのなれ合いが工事再開へと流れていくのが懸念される。

今後、事業者や国・県との協議がされていくと思うが、身を挺して対応していくべきであると思うが。

気をつけ進めていく

村　長　私は、そういう部分はきちんと線を引いているという思いはあるが、一層気をつけて進めていきたい。

村の要望内容変更の経緯は

坂井議員　再開に向けての懸念材料である避難道路について、大間原発三ヶ町村協議会では村が要望していたあすなろラインとかもしかラインの協議がされなかった。

そのようになったいきさつは。

三ヶ町村統一の考えとなったため

村　長　三ヶ町村統一の考えで要望することとなり、下北半島縦貫道路のみの要望となった。

村としては両ラインについて今後も機会あるごとに強く要望していく。

工事再開のメリットは

坂井議員　工事再開によるメリットは。

雇用創出や村財政への影響は大きい

村　長　村の商工業をはじめとした地域経済や原発施設で働く村民の雇用、そして村の財政運営に及ぼす影響は大きい。

宿舎建設の予定があったが、現在は未定となり建設業者や宿舎に係わる雇用がほぼない状況である。

再開には慎重な議論が必要では

坂井議員　現在残っている工事は専門的なもので地元に恩恵があるのか疑問である。逆に長期間にわたる事故に対する不安を考えるとデメリットは大きい。時間をかけ、慎重に議論する必要があると思うが。

悔いの残らない協議をする

村　長　原子力施設の安全性確保と原子力防災の確立を前提として、工事再開や運転開始等については、悔いの残らないよう十分協議していきたい。

避難道路整備の確約が必要では

坂井議員　民意は工事の再開を要請していないと考えるが。

仮に再開になったとしても、運転開始までに避難道路を整備するという確約を取るぐらいの気持ちで臨まなければ住民の気持ちは変わらないのでは。

隣接町村と連携し臨んでいきたい

村　長　工事再開より安全対策が先決だと思う住民が多いと思っている。またそのようにしなければならないと思っている。確約については、大間町や風間浦村の意見も聞き、連携を深め臨んでいきたい。

ニホンザル被害対策報告

引き続き被害対策に全力を

総務産業常任委員会　委員長　山口捷夫

十一月二十九日、午後二時三十分から総務産業常任委員会を開催し、下北半島のニホンザル被害対策市町村等連絡会議事務局長　山崎秀春氏、産業建設課並びに鳥獣被害対策実施隊の方々の出席により、今年度のニホンザルの追い上げの反省点やニホンザル捕獲の現状、見通しについて説明を受けた。

藤田課長から、今年度鳥獣被害対策実施隊十一名が班編成で行ったニホンザル巡視活動内容の説明および八月からモンキードッグ一頭を村に配置し、保護管理専門員二名がサルの巡視、追い上げを行ったことが報告された。捕獲状況については、第二次特定鳥獣保護管理計画に基づいて平成二十年四月から平成二十四年三月までの四年間で当村に割り当てられた七十九頭のうち、これまで六十二頭が捕獲処分され、残り四ヶ月間で全頭を目標にしていることが報告された。

委員会では被害対策事業の活動内容について説明を受けた

保護管理専門員でもありモンキードッグハンドラーの佐藤真彦氏からは、モンキードッグを導入したのが本年八月で数ヶ月しか活動はしていないが効果はあるとの認識である。

一方、鳥獣被害対策実施隊からは、モンキードッグがうまく活用されていないことから、ハンドラーとの連携の必要性を訴えていた。

続いて山崎氏からは、旧脇野沢村や大間町でモンキードッグを導入し、農作物の被害が大幅に軽減されたことや、群れ捕獲については、これまでの経験から群れの八割は箱わなで残り二割は麻酔銃での捕獲をすれば可能であるとの説明であった。私達は一方的な銃での捕獲処分が一番効果があるとこれまで思っていたが、説明では発砲によって群れの分裂が起き、今後において厄介なものになるとのことだった。

平成２３年８月に導入されたモンキードッグ

出席した委員から、農家の電気柵の管理が不十分であり、農家の意識改革が必要であることや、第三次の保護管理計画では、捕獲頭数は毎年ごとの申請になるとの説明であったので、申請したものは全頭捕獲して数を減らしてほしい、また関係者が連携を図り耕作者の期待に応えていただきたいなどの意見要望があった。

長年の懸案事項であるニホンザルの被害対策は、少しずつであるが先が見えてきた感がする。しかし、農家の方々は疲弊し耕作の意欲が失われているため、農家の方々の期待に早期に応えていただきたいことを強くお願いする。

正副議長、事務局長研修会　10月26日青森市

青森市「県共同ビル 大会議室」において、標記研修会が開催されました。

県内各町村の正副議長が参加し、山梨学院大学法学部教授　江藤俊昭氏が「住民自治の充実と議会改革の課題」と題し講演を行い、地方自治法の改正内容や議会の役割について改めて理解を深めました。

下北郡町村議会議員及び事務局職員合同研修会

11月10日風間浦村

風間浦村「下風呂公民館 研修室」において、標記研修会が開催されました。

この研修会は下北郡の町村議会議員及び事務局職員が一堂に会し研修を行い、相互の理解と連携を強め、地域の議会活動の向上に資するために毎年行われているものです。

今年度は議会議員及び職員合わせて約４０名が参加し、電源開発㈱大間原子力建設所長　浦島彰人氏が「我が国の電気事業の歴史とエネルギー政策」と題し講演が行われました。

第３回臨時会（11月28日）
大震災の消防団員犠牲者増による
公務災害補償負担掛金467万円を追加補正

【可決した議案】

○専決処分した事項の承認（平成二十三年度一般会計補正予算（第四号））

奨学資金貸与条例の改正に伴う電算システムの改修費及び東日本大震災に伴う消防団員等公務災害補償追加負担金に係る業務委託費の増額補正。

五百三十万四千円を増額　【全会一致】

○専決処分した事項の承認（平成二十三年度一般会計補正予算（第五号））

村道川磯線沿いの国有林伐採工事に伴う光ケーブルの移設工事費の増額補正。

七十一万九千円を増額　【全会一致】

○職員の給与に関する条例等の一部改正

青森県人事委員会の勧告に基づく改正。【全会一致】

～未来への財産～

むらのこどもたち

佐井小学校④

みんな、まぶしい笑顔です

５年生 今したいこと、頑張りたいこと

佐々木竜太郎
家族のために皿洗いやせんたくを干したり、家の中のそうじをやって役に立ちたいです。

池田　輝
佐井村のために、近所の人の手伝いをして、笑顔を広げたい。

畠中大輔
今の自分にできることは、お母さんが仕事で大変なので妹のめんどうを見てあげたいです。

渋谷憲伸
家の手伝いです。手伝いをすると手伝ってもらった人が助かるから。

川岸　蓮
野球を練習して、試合に勝って、佐井の人達を喜ばせたいです。

竹内　佑
家の人が少しでも楽ができるように、雪かきやごはん作りなどを手伝いたいと思います。

奥本玲依来
家族のために、ふろ掃除をがんばっています。次は、手伝いを近所まで広げたいです。

工藤菜々子
家の手伝いをたくさんやって感謝し合えるようにしたいです。

石黒晴奈
村の人へあいさつができます。あいさつをすると村に笑顔が増えて、村が輝きだします。

佐藤李々華
雪が積もったら、雪かきを家の周りだけでなく、その他の家の前もやる。

工藤未来
歩いている人にあいさつをして、佐井村の人が気持ちよく過ごせるようにする。

船越桃佳
村の人にあいさつする。すると、たくさんの人が笑顔になると思う。

宮川恵梨加
もっと卓球が上手になって、佐井村の人や家族の人に笑顔になってほしいから。

奥川亜紀
今は、野球をおもいきってやって、試合に勝ちたい。そして、家族を笑顔にさせたい。

船越まりあ
家庭科で、ご飯の作り方がわかったので、冬休みなど家族のために料理を作ることです。

池田春菜
家族のために、父や母の手伝いをして、家族が輝くように役に立ちたいと思っています。

松谷茉奈
家族のためにたくさん手伝いをして、家をよごさないようにして役立つようにする。

６年生 未来の佐井村のために

校内駅伝大会を終えて、さわやかな笑顔です

宮木利幸
佐井村がこのまま平和で老人も子どもも元気に過ごし、学校もこわれないで残っていればいいと思う。

福田　凌
交通事故がない佐井村になってほしい。そのために、地域の人たちに呼びかけていきたい。

佐藤直人
将来の佐井は、観光を盛んにしてほしい。そのために、他の地域の人に知ってもらいたい。

岡村和樹
佐井村をもっとＰＲするために、都会などで佐井の特産品や観光名所などを教えたい。

大畑作弥
活気があって、日本でも有名な所になってほしい。そのために、佐井村のことを都会の人に伝えたい。

木部一朝
将来、佐井の野球チームが日本一になれるように、自分が野球教室を開きたい。

加藤大斗
佐井村のいい所をもっと色々な人に知ってもらうために、観光客に佐井のいい所を紹介したい。

山本隆哉
佐井村が、このままいつまでも残る村であり、平和で楽しく明るい佐井村であってほしい。

和田康志
青森県にプロ野球の球団を作って、佐井にホーム球場をおき、色々な人に佐井を知ってもらう。

宮川　佑
スーパーマーケットが建ってほしい。そして、みんなの生活が便利になるといいなあ。

田名部岳春
もっと店が多くなってほしい。また、もっと海がきれいで自然豊かな佐井村になってほしい。

樋口大樹
佐井に路面電車ができれば、運転できない人や車がない人が移動しやすくて困らないと思う。

松谷拓人
住みやすい所にしたいし、佐井村の自然や海を残して有名な所にしたい。

福田竜也
将来、佐井村でもっと魚がとれるといいと思います。佐井村が漁業で有名になればいいからです。

田畑有梨沙
今と変わらないきれいな佐井であるために、ゴミを捨てず、きれいな佐井にし続けたいです。

宮木詩織
もっときれいな海になるといい。そのために、ポイ捨てをせず、している人がいたら注意する。

鈴木美波
私は、色々なお店ができるのもいいけど、今まで通りの自然豊かな佐井村を保ちたい。

奥本瑞生
佐井村が今より店が多くできるように、将来は店を出せる資格を取りたいです。

岩清水千文
佐井村から東京都に新幹線を開通させ、もっと観光客を増やして佐井村を有名にしたい。

宮川日向子
佐井村が明るくなるために、地域の方々に会ったら自分からあいさつをする。

シリーズ② 完

議会報告会を開催します

佐井村議会では、議会改革の一環として、「議会報告会」を下記の日程で開催します。

「議会報告会」では、議会・委員会活動の状況を報告・説明し、村政運営に関する情報提供などを行います。また、議会活動に対する批判やご意見、村政に対する提言などをみなさんからお聞きする貴重な機会ですので、ぜひご参加ください。

○開催場所・時間

２月　７日（火）	川目地区生活改善センター	午後１時３０分
	長後地区生活改善センター	午後６時
２月２１日（火）	磯谷地区漁民研修センター	午後２時
	牛滝交流促進センター	午後６時
２月２４日（金）	歌舞伎の館	午後３時
	アルサス（会議室）	午後６時３０分
３月２９日（木）	原田地区生活改善センター	午後２時
	矢越地区生活改善センター	午後６時

○内容

・定例会、臨時会の報告
・議会改革の取り組み等について
・前回報告会での意見要望に対する回答
・大間原子力発電所について
・議会運営や村政に対する意見・要望　　など

～議会を傍聴しませんか～

第１回議会定例会は３月５日開会予定です。

みなさんの議会傍聴をお待ちしています。

議会終了後は告知端末機チャンネルでも一般質問の様子を音声放送する予定でいますので、ぜひ放送をお聞きください。

詳しくはサイボードでお知らせします。